

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	水稻栽培 I	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農			
学期	前期 後期	時間数 (単位数)	時間 (1単位)			
授業形態 (○記入)	講義	演習	実験	実習	見学	

科目内容 (教育研修計画より転記も可) 水稻の一生と栽培管理 (育苗、移植、本田管理、幼穂発育期、登熟、収穫) 本県稲作の基本技術 (品種、土づくり、食味向上、環境と調和した技術)
--

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	滋賀県稲作の特徴、稲の一生 (栄養成長、生殖成長)、稲の姿 (葉、茎)
第2回(4時間)	育苗の手順、苗の種類、田植機利用の苗
第3回(4時間)	本田準備 (耕起、碎土、整地、代かき)、田植
第4回(4時間)	分けつ、水管理、病虫害雑草防除
第5回(4時間)	施肥基準、穂肥の目安、施肥の計算、出穂
第6回(4時間)	登熟、収穫適期、収穫、乾燥、調製
第7回(4時間)	環境こだわり栽培、有機栽培
第8回(4時間)	収量構成要素、食味向上、品質向上
使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入	
農文協：農学基礎シリーズ作物学の基礎 I (学生購入)	
滋賀県：稲作技術指導指針 (配布)	
自作資料	

到達目標
移植水稻の栽培技術が身についている。 主要品種の概要が身についている。 本県稲作の特徴が理解できている。 移植栽培の経営指標の成り立ちが理解できている。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))
<input type="checkbox"/> 記述テスト <input type="checkbox"/> 出欠状況 <input type="checkbox"/> 提出物の有無と内容 <input type="checkbox"/> 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	水稻栽培Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農	
学期	<input checked="" type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)	
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験	<input type="radio"/> 実習 <input checked="" type="radio"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可) 低コスト稲作技術を学ぶ。 新しい需要(主食用以外)に向けた補助制度と経営収支について学ぶ。
--

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	湛水直播(カルパー、鉄コーティング)の栽培技術
第2回(4時間)	乾田直播(V溝)の栽培技術
第3回(4時間)	経営所得安定対策の内容、水田活用米穀と麦・大豆の取り組み
第4回(4時間)	経営試算(移植栽培、直播、麦・大豆の比較)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入 滋賀県稲作指導指針 経営所得安定対策等の概要(農林水産省:パンフレット) 経営ハンドブック
--

到達目標 低コストの稲作技術が理解できている。 経営所得安定対策の概要と仕組みについて理解できている。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠)) <input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度
--

評価基準 本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。
--

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	麦類の栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	講義	演習	実験
		実習	見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)			
1. 4麦(小麦・六条大麦・二条大麦・はだか麦)と利用方法	2. 本県麦の特徴	3. 栽培管理	4. 経営指標

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	麦類の用途、流通、本県麦作の課題(生産量、品質、収量向上)について、播種準備(排水対策)について
第2回(4時間)	栽培基本技術(播種、施肥、病害・雑草対策、収穫・乾燥調製)、品種について、栽培こよみ
第3回(4時間)	現地見学 担い手の取り組み状況、機械・施設体系など
第4回(4時間)	経営指標(交付金体系、栽培技術と経費)まとめ(収量・収益向上対策)

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
売れる麦・大豆づくりに向けての指針(滋賀県) 経営ハンドブック(滋賀県)
麦類の栽培について(講師作成)

到達目標
麦類の用途、および生産状況、生産上の課題について理解する。 栽培の上の基礎技術、金収量系、機械体、上についで理解する。 収量性の栽培技術、機械体、上についで理解する。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	大豆栽培	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 <input type="radio"/> 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農	
学期	前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/>	時間数 (単位数)	時間 (1単位)	
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験	<input type="radio"/> 実習 <input checked="" type="radio"/> 見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可)	
1、大豆をめぐる情勢 2、県内普及品種の特性 3、先進農家での見学 4、大豆栽培技術の概要	

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	導入、大豆の起源、形態、生態、生育など
第2回 (4時間)	現地実習 (先進農家での見学)
第3回 (4時間)	大豆栽培に関する技術 (品種の特性、土づくり～播種、中耕培土～病害虫、雑草防除)
第4回 (4時間)	大豆栽培に関する技術 (収穫～調整、その他)、総括
第5回 (4時間)	
第6回 (4時間)	
第7回 (4時間)	
第8回 (4時間)	

使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入
<ul style="list-style-type: none"> ・作物学の基礎 I -食用作物- ・売れる麦・大豆づくりに向けての指針 ・大豆をめぐる事情 (農林水産省) ・国産大豆の需要動向について (農林水産省)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・大豆の形態、生態、生育などの基礎的な知識が身についている。 ・大豆の栽培方法に関する技術について基礎的な知識が身についている。 ・大豆の調整方法に関する基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))
<input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	土地利用型園芸 I	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農		
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数 (単位数)	16時間 (1単位)		
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義 <input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験 <input type="radio"/> 実習	<input checked="" type="radio"/> 見学		

科目内容 (教育研修計画より転記も可)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田作野菜、<u>花き</u>の作付体系 (土地利用型作物と組み合わせた土地利用体系) ・ 水田作露地野菜、<u>花き</u>や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 ・ 排水対策の重要性とその手法 ・ キャベツ、はくさい、ブロッコリー、たまねぎ、<u>小菊</u>に関する各論 (性状、作型、栽培管理、病害虫管理、機械化) 	

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	(講義)水田で栽培できる野菜の種類、水田での栽培における留意点、露地水田野菜を導入する農業経営とは
第2回 (4時間)	(講義)排水対策、作付体系 (土地利用体系、ほ場のローテーション)、加工・業務用途向け栽培の特徴について
第3回 (4時間)	(講義)各品目の花芽分化特性や育苗技術について、キャベツ栽培について (見学)土地利用型大規模経営体における収穫機を用いたキャベツ収穫作業
第4回 (4時間)	(講義)ブロッコリー・ハクサイ・タマネギ・ <u>小菊</u> の栽培について、各品目の病害虫雑草防除について、作付計画を立てるのに必要な計算について

使用教科書 (テキスト)	自作資料 (農水省HP、ヤンマーHP、クボタHP等を参考に作成) を使用。
--------------	---------------------------------------

到達目標	<p>土地利用型経営に水田野菜や水田花きを導入する意味を考える。</p> <p>消費者・流通・生産者それぞれの立場から露地水田野菜、<u>花き</u>各品目のイメージをとらえ、経営形態や経営戦略を考える。</p> <p>家計消費向け栽培と加工・業務用向け栽培の違いを理解する。</p> <p>各品目の生理生態に基づき、具体的な栽培方法を理解する。</p> <p>排水対策の必要性を理解し、排水対策技術の基本を身に着ける。</p>
------	--

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))	○記述テスト ○出欠状況
--	-----------------

評価基準	<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>
------	---

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	土地利用型園芸Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 就農	
学期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)	
授業形態(○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実験	<input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可) 露地野菜(ダイコン、カブ、任類他)に関する各論、来歴、性状および適応性、品種、作型栽培管理、経営上の特性、県内外の先進地における栽培状況調査
--

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	ダイコン、カブの生理・生態・県内の栽培状況・経営・産地
第2回(4時間)	ニンジン、タマネギの生理・生態・県内の栽培状況・経営・産地
第3回(4時間)	パレイショ、サツマイモの生理・生態・県内の栽培状況・経営・産地
第4回(4時間)	ゴボウ、ナガイモ等の生理・生態・県内の栽培状況・経営・産地
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入 ○各対象作目の生理・生態・県内の栽培状況・経営・産地に関する資料 ○露地野菜栽培指導指針・滋賀県農業経営ハンドブック・青果物生産事情調査等

到達目標 ○根菜類の性状や適応性等についての基礎的な知識が身についている。 ○根菜類の生理生態について基礎的な知識が身についている。 ○根菜類の栽培についての基礎的な知識や栽培技術が身についている。 ○根菜類の産地形成や経営について理解ができています。
--

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠)) ○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度
--

評価基準 本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。
--

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	農業機械 I (学科)	担当	団体職員	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生		<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 就農
学期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	時間数 (単位数)		16時間 (1単位)
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実験	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 見学 <input type="checkbox"/> 実技

科目内容 (教育研修計画より転記も可)		
1. 農業機械と農作業—意義と役割	2. エンジンの基礎知識	3. トラクタの構造と機能
4. 主要農業機械の構造と機能		
5. 整備と安全作業		

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	耕うん整地用機械の構造と作業方法
第2回 (4時間)	稲作用機械の構造と作業方法
第3回 (4時間)	稲作用機械の構造と作業方法、乾燥調製施設の構造
第4回 (4時間)	農作業安全、畑作用機械の構造と作業方法
第5回 (4時間)	
第6回 (4時間)	
第7回 (4時間)	
第8回 (4時間)	
使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入	
<ul style="list-style-type: none"> ・「新版 農業機械の構造と利用」藍房和他著 ・その他持込み資料 	

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産や農業経営などで必要となる知識の一環として水稻、麦、大豆作に代表される生産において、主として利用される農業機械や施設の概要について理解する。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))
<input type="checkbox"/> 記述テスト <input type="checkbox"/> 出欠状況 <input type="checkbox"/> 授業態度

評価基準
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	植物病理	担当	製薬会社顧問	実務経験	有	無
科目の種別	教養 <input checked="" type="radio"/> 共通 <input type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農			
学期	<input checked="" type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	24時間(2単位)			
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義 <input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学		

科目内容(教育研修計画より転記も可) 作物保護の重要性, 病気の基礎知識, 伝染方法, 病害の原因と診断, 病害の発生と環境条件, 作物保護の手段
--

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	作物保護の重要性・植物病理学とは
第2回(4時間)	植物病害の基礎知識－病原体各論(1)
第3回(4時間)	植物病害の基礎知識－病原体各論(2)
第4回(4時間)	植物病害の基礎知識－感染と発病
第5回(4時間)	病害の伝染・病害の発生と環境条件
第6回(4時間)	病害の発生と環境条件・病害の診断
第7回(4時間)	作物保護の手段(1)
第8回(4時間)	作物保護の手段(2)
使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入	
○ 毎回プリントを配付する。参考図書も講義の中で適宜紹介する。	

到達目標
<input type="radio"/> 作物保護の重要性について理解することができる <input type="radio"/> 各種作物の病害をひきおこす病原体の分類上の位置, 生物学について理解することができる <input type="radio"/> 病害の伝染, 病害の発生と環境条件, 病害の診断について理解することができる <input type="radio"/> 作物保護のさまざまな手段について理解することができる

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
<input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度

評価基準
本講座は, 講義を主とする科目であることから, 評価は筆記試験やレポート等の成績のほか, 出席日数, 受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により, 50点以上を合格とし, 50点未満を不合格とする。なお, 成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について, 本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし, 追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	応用昆虫	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 就農		
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	時間(1単位)		
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input checked="" type="radio"/> 演習	実験	実習	見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)
害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	昆虫の起源と人類との係わり、昆虫の種の多様性と分類体系
第2回(4時間)	基本的な害虫管理手法と総合的病害虫防除(IPM)の概念
第3回(4時間)	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性
第4回(4時間)	主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
<ul style="list-style-type: none"> ・自作のプリント資料(参考図書:「植物防疫講座(害虫・有害動物編)」日本植物防疫協会、「現代応用昆虫学」朝倉書店 他) ・減農薬害虫防除DVD(農文協)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の農作業実習等で必要となる害虫や天敵等への知識を身につける。 ○DVDの映像や画像等の視覚的な学習を取り入れることで、害虫や天敵等をじっくり観察できる力を身につける。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
<input type="radio"/> 記述テスト <input type="radio"/> 出欠状況 <input type="radio"/> 提出物の有無と内容 <input type="radio"/> 授業態度

評価基準
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	作物病虫害	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 <input type="radio"/> 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農	
学期	前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/>	時間数 (単位数)	16時間 (1単位)	
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義 <input type="radio"/> 演習	実験	実習	見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可)

- ① 水稻・麦・大豆に発生する病虫害の診断と生態
- ② 農薬の特性と安全利用、防除技術 (耕種・物理・生物防除)
- ③ 総合的病虫害管理技術 (IPM)

授業内容 (4時間を1回分とした内容)

第1回 (4時間)	作物病虫害の観察・見分け方 (県内の病害・虫害常発地を巡回し、各現場で講義：バスで1日)
第2回 (4時間)	
第3回 (4時間)	作物病害全般の講義
第4回 (4時間)	作物虫害全般の講義
第5回 (4時間)	
第6回 (4時間)	
第7回 (4時間)	
第8回 (4時間)	

使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入

- 講師作成教材
- 稲作技術指導指針
- 売れる麦・大豆づくりに向けての指針
- 農作物病虫害雑草防除基準
- 図解でよくわかる農薬のきほん

到達目標

- 作物の主要病虫害について基礎的な知識が身についている。
- 現場で主要病虫害を見分ける能力が身についている。
- 病虫害の生態を理解し、防除適期と防除技術を理解できている。
- 総合的病虫害管理技術について基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))

- 記述テスト
- 出欠状況
- 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義および現場での演習を組み合わせ、作物の主要病虫害およびそれらの防除技術について理解を深める科目であり、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	大規模経営と集落営農	担当	県農業技術職員	実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 就農	
学期	前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)	
授業形態(○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	実験	実習 <input checked="" type="checkbox"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)
土地利用型経営概論

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	土地利用型経営の現状と課題、取り巻く情勢
第2回(4時間)	大規模個別経営体の現地事例調査
第3回(4時間)	集落営農法人の現地事例調査
第4回(4時間)	土地利用型経営の今後の経営展開
第5回(4時間)	
第6回(4時間)	
第7回(4時間)	
第8回(4時間)	

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入
自作資料(土地利用型経営における農業経営の状況、大規模経営と集落営農の違い、今後の経営展開等)滋賀県農業経営ハンドブック、農水省HPデータ等

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用型経営をめぐる状況を理解できる ・大規模経営と集落営農のそれぞれの特徴および違いを理解できる。 ・現地事例調査を通じて、大規模個別経営体および集落営農法人の現状や課題を理解し、就業意識を高める。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
<input type="checkbox"/> 記述テスト <input type="checkbox"/> 出欠状況 <input type="checkbox"/> 提出物の有無と内容 <input type="checkbox"/> 授業態度

評価基準
<p>本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。</p>

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	野菜流通 I	担当	外部農業団体職員	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="radio"/> 専攻	対象学生	<input checked="" type="radio"/> 1年 <input type="radio"/> 2年 <input type="radio"/> 就農		
学期	前期 <input checked="" type="radio"/> 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)		
授業形態(○記入)	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実験	<input type="radio"/> 実習	<input checked="" type="radio"/> 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)

1. 野菜流通の基本となる市場流通の仕組みと役割
2. 市場を取りまく流通実態把握(ケーススタディー(以下「CS」))

授業内容(4時間を1回分とした内容)

第1回(4時間)	専攻生の学習希望事項の把握、野菜流通概論 DVD教材視聴「こと京都(株)(特に設立前まで)」、レポート
第2回(4時間)	CS①特色ある新規就農野菜作経営事例の輪読とレポート CS②同上3事例のネット検索とレポート
第3回(4時間)	DVD教材視聴「農事組合法人太陽農園」 CS③特色ある大規模野菜作経営事例の輪読とレポート
第4回(4時間)	青果物のセリとその機能についての考察 取引費用、新たな市場外流通の中間業者との対比

使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入

- ・ DVD「AgriFutureJapan農業経営力養成講座2012DISC-2」こと京都(株)
- ・ 「なぜ卸売市場を選ぶのか」大住あづさ『農業と経済』2017.11
- ・ 「卸売市場はなぜ必要か」藤島廣二『農業と経済』2017.11
- ・ 「大塚ファームの・・・挑戦と人材育成」『農業』NO.1600 2015.6 P7-20
- ・ 『キレイゴトぬきの農業論』久松達央 新潮選書他

到達目標

野菜流通の概要と個々の野菜経営にとって流通とは何か、マーケティングの一環としてその意義を理解させ、CSにより、その意味を学生が主体的かつ具体的に理解し、専攻生個々が想定する野菜経営プランに盛りこめるようにする。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス

講座名	野菜流通Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
科目の種別	教養 共通 <input checked="" type="checkbox"/> 専攻	対象学生	1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 就農		
学期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)		
授業形態 (○記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	演習	実験	実習	<input checked="" type="checkbox"/> 見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可) 野菜流通に関する情報、データ収集方法の取得、卸売市場の状況確認、先進的な農業者のSNSを用いた流通促進の取り組み事例の理解、主要産地でのマーケティング事例の学習、教材を用いた流通概論の理解、先進的な直売所、農業者における野菜の流通、経営の取組について現地学習

授業内容 (4時間を1回分とした内容)	
第1回 (4時間)	野菜流通の情報、データ収集方法、卸売市場の状況確認等
第2回 (4時間)	先進的な農業者のSNSを用いた消費者への情報発信、主要産地でのマーケティング事例の学習
第3回 (4時間)	野菜の流通とマーケティングについて
第4回 (4時間)	先進的な農業者の流通の取組と経営について (校外学習)

使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入 ○日本農業新聞 ○果実日本(くだものマーケティング講座) ○農畜産業振興機構ホームページ ○先進的な流通の取組を行う農業者のホームページ、SNS
--

到達目標 ○野菜の流通に関する成功収集ができる。 ○野菜産地の流通販売戦略、手法が理解できている。 ○野菜流通の基礎知識、実際の流通、マーケティングが理解できている。 ○先進的な直売所と農業者の流通への取組が理解できている。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠)) ○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準 本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。
